

特集

令和元年度決算審査

令和元年度の決算を審査しました

市長は、翌年度の予算額を決める3月定例会までに、監査委員が審査した前年度決算について議会の認定を受けなければなりません。令和元年度の決算については、9月に開催された令和2年第3回定例会に決算認定を求める議案が提出され、議会における審議が行われ、全ての決算を認定しました。

今号では、令和元年度決算の概要とともに、決算特別委員会での審議内容を特集としてお知らせします。

決算の概要

	歳入(収入)	歳出(支出)
一般会計	31,369,050,778円	29,842,286,240円
特別会計		
国民健康保険事業	7,692,890,354円	7,692,890,354円
公共下水道事業	1,990,070,280円	1,906,985,917円
青果市場事業	14,643,497円	14,642,908円
小規模水道事業	5,738円	5,738円
介護保険事業	5,422,135,324円	5,305,272,454円
後期高齢者医療事業	1,745,568,494円	1,745,568,494円
合計	48,234,364,465円	46,507,652,105円

こんなことに使われました(一般会計決算より)

民生費 97億282万円

- ◆民間保育園の建設を支援する 5,165万円
- ◆障がい者の地域活動支援センターを拡充する 2,901万円



教育費 64億6,561万円

- ◆児童クラブを運営する 1億7,015万円
- ◆ひたち野うしく中学校を建設する 22億1,252万円



総務費 36億466万円

- ◆コミュニティバスの運営 5,525万円
- ◆交通安全施設を新設する(カーブミラー、路面標示等) 254万円



衛生費 28億2,733万円

- ◆予防接種を実施する 1億6,879万円
- ◆清掃工場を維持管理する 3億4,732万円



農林水産業費 2億1,608万円

- ◆適正な転作指導による計画的な米の出荷を誘導する 1,830万円



商工費 10億5,991万円

- ◆牛久シャトーを利活用する 1億2,253万円
- ◆かっぱ祭りを支援する 2,500万円



土木費 23億5,738万円

- ◆エスカドビルをリニューアルする 5,710万円
- ◆市道23号線を改良舗装する 1億325万円



消防費 10億4,067万円

- ◆消防団を運営する 5,520万円
- ◆稲敷広域消防の運営に参加する 8億5,792万円



公債費 23億3,342万円

- ◆元本の返済及び利息の支払い



監査委員の審査意見より

新型コロナウイルス感染症の発生時期が年度末であったため、市への影響は限定的であったが、建設事業費の大幅増や扶助費、公債費、補助費がそれぞれ数億円規模で増になったことで、一般会計、各特別会計をあわせた決算総額は歳入歳出とも過去最高額となった。

一般会計の歳入増の主な要因は、国庫支出金、市債、繰入金、市税、地方税などによるもので、特に市税は徴収努力により徴収率は8年連続で前年度を上回る結果となった。歳出増の主な要因はひたち野うしく中学校新築工事費と開校準備費用で約23億円の増となったためである。一方、特別会計への繰出金は約2億円の減となったのでこの傾向を今後も継続されたい。

コロナショックで今後の行財政見通しはより難しくなったが、市債発行を慎重に行い、計画的な基金積立と残高の確保、自主財源を確保するための市有財産等の活用、受益者負担の原則の観点からの使用料・手数料の適正性の検証など、持続して発展を続けるまちづくりのための行財政改革に努められるよう望む。

決算特別委員会

議会では、決算審査を行うため、10人の委員で構成される決算特別委員会を設置し、審査を行いました。審査は9月11日、14日、15日の3日間行われました。ここからは、決算特別委員会での審査の状況をお知らせします。

決算特別委員会審査スケジュール

月 日	内 容
9月11日(金)	・ 現地視察 (牛久クリーンセンター) ・ 一般会計歳入歳出決算審査 (市長公室、経営企画部、総務部等、市民部)
9月14日(月)	・ 一般会計歳入歳出決算審査 (教育委員会、保健福祉部)
9月15日(火)	・ 一般会計歳入歳出決算審査 (環境経済部等、建設部) ・ 特別会計歳入歳出決算審査 (保健福祉部、環境経済部、建設部)

令和2年第3回牛久市議会定例会 決算特別委員会委員

委員長	須藤 京子		
副委員長	柳井 哲也		
委員	守屋 常雄	山本 伸子	
	池辺 己実夫	長田 麻美	
	伊藤 裕一	北島 登	
	鈴木 勝利	加川 裕美	



決算特別委員会での審査に先立ち、令和元年度に実施された事業の中から選定した事業に係る現地視察を9月11日に行いました。今回は牛久クリーンセンターを視察しました。

牛久クリーンセンター



牛久クリーンセンター 基幹的設備改良事業の年度別内訳

年 度	工 事	施工監理
平成27年度	1億7,918万3千円	201万円
平成28年度	1億9,224万円	188万7千円
平成29年度	7億101万7千円	660万7千円
平成30年度	4億2,963万5千円	915万1千円
令和元年度	5億8,232万5千円	86万5千円
5カ年総額	20億8,440万円	2,052万円

牛久クリーンセンターでは、基幹的設備改良工事が令和元年度で終了しました。

これは、牛久クリーンセンターの施設の延命化を図るため、長寿命化計画に基づき平成27年度から5カ年にわたり行われた工事であり、令和元年度に終了したものです。この工事により経年劣化による老朽化対策と燃焼安定性の向上及び使用電力量の削減を図ることで、施設の延命化につながるとともに、稼働によるCO₂排出量が3.4%削減されることが見込まれます。この工事の内容及びその成果を確認するため、現地にて担当課職員からの説明を受けるとともに、実際の現場を視察しました。



次ページでは、決算特別委員会での質疑の状況をお知らせします。
市の事業は多岐にわたることから、主な質疑について、テーマごとに分けてご紹介します。

決算特別委員会における主な質疑

防災

問 台風等による被害の応急対応の内容は？

答 道路の通行に支障をきたす倒木について、その切断、撤去、搬出について、協定を締結している業者へ依頼をしており、台風15号では24本を撤去、台風19号では3件の対応を行った。



行財政

問 経常収支比率の改善のための具体的な対処策は？

答 歳入については、超少子高齢化や新型コロナウイルス感染症の影響により今後の減収が見込まれている。歳出における経常的な削減、特に物件費の削減が重要なポイントであることから、職員一人一人が無駄な経費の有無、事業内容の効果について改めて見直すことで経常経費の削減につなげていきたい。また、その他人件費、公債費、扶助費といった義務的経費の伸びについても注視しながら財政運営の適正化に努めていきたい。

保健

問 大人の風しん抗体検査と予防接種を実施する事業において、予算の充流用^{*}を行った理由は？

答 大人の風しん抗体検査は、令和元年度から3カ年の事業である。3カ年で検査を受ける人数を当初は1,000人を見込んで予算計上したが、実際に検査を受けた人数が2,256人、うち376人が予防接種を受けた。このように抗体検査や予防接種を受ける方が当初の見込みを大きく上回ったことで事業費が増加し、充流用を行った。



^{*}充流用…予備費からの充用と、他事業からの予算流用の両方があったもの。

教育

問 小・中学校のICT環境の整備に伴う教職員への研修については？

答 昨年度ICT教育の研修については、働き方改革の視点からも出張等を減らす趣旨で、教職員を一同に集めての研修は実施していない。しかし、ICT活用の研修は重要であることから、各校に対して年1回必ず行う計画訪問時にICT教育に係る指導を行っている。



下水道

問 上町排水区の調整池を整備する事業における実施設計の内容は？

答 上町排水区の調整池の実施設計については、刈谷団地とつつじが丘団地の間で整備している調整池に隣接する道路において亀裂及び法面^{*}(のりめん)の損傷が生じたため、その原因の調査と対策のために実施設計を行っている。

問 下町排水区の調整池を整備する事業における整備進捗率は？

答 下町排水区の調整池については、面積ベースで61%の整備が完了している。

^{*}法面…切土や盛土などによりできた人工的な斜面。

空家対策

問 空家の適正管理及び有効活用を推進する事業において、空家無料相談会はどのような体制で行っているか。

答 令和元年度に4回の相談会を実施しているが、いずれも4人の相談員(弁護士、司法書士、宅地建物取引士、建築士)で対応している。

問 相談の結果、空家の利活用や除却、相続等の対応につながった事例の有無は。

答 相談会において売却を希望する方には空家バンクに登録の申請をしていただき、売買が成立した事例もある。

